

## 地域包括ケアネットワーク No.9

### 吉備医師会の取り組み

吉備医師会 森 下 紀 夫

吉備医師会は、総社市、岡山市の高松足守地区、倉敷市の真備地区よりなり立っています。三つの行政区とそれぞれかかわっていますが、今回は、総社市での包括ケアシステムについて述べさせていただきます。総社市は行政も包括ケアの取り組みに力を入れており、お互いの弱点をカバーできるように、医師会は行政とタッグを組んで頑張っているところです。

まず、平成18年より行っている、総社市包括支援ケア会議がこの10月で34回の開催を迎えました。現在、この会議で力をいれて取り組んでいるのは「そうじゃ みんなで見守るネットワーク」の構築です。住み慣れたまちで安心して暮らしていただけるように、高齢者や障がい者、児童等を重層的に見守るため様々な関連機関と連携、情報の共有を行い異常の早期発見、解決に取り組もうとするものです。現在23の関連施設と提携しており今後も増加の予定です。本会議に先立ち、市内を5分割した生活圏ごとに小地域ケア会議を行い、圏域レベルでの地域課題について話し合っており、その問題点をもって本会議で報告考察を行っています。地域ケア会議委員が無理のない範囲で出席を行い、地域の現状把握やケアシステム構築に向けた助言なども行っています。今年度は訪問診療で活躍している医師の参加が積極的になされ、会議に出席する民生委員や市民の方々にも好評でした。

介護困難事例や虐待などが疑われるケースなどは医師や行政書士が出席して個別ケア会議が随時開かれ、現在の問題点や今後の対応などについて協議されています。

また、多職種意見交換会を年一回行っており、医療や介護に携わる各事業所が、名刺やパンフレットを配って顔の見える関係作りに力を入れています。

ケアマネージャーや介護職員、施設の職員などの研修や意見交換の場として、平成12年より吉備医師会・NPO法人岡山県介護支援専門員協会総社支部合同研修会（通称ケアマネの会）を行っており、今年11月には15回目の開催を行いました。今回は日本ホスピス・在宅ケア研究会の理事の田村 亮先生を姫路よりお招きして、2025年問題に向けて、非がん患者の緩和ケアやアドバンス・ケア・プランニングなどについて勉強しました。

今年度より地域医療のネットワークの強化のため、「医療と介護のネットワークの集い」という会が開かれました。テーマ（お互いの役割を理解して、退院時及びその後の支援をするために）にそった、話題提供があり、7から8人の小グループで意見交換を行い、発表するという形で行われ、熱い討論が行われました。

吉備医師会はこれからも行政とがっちり手を組んで地域医療、包括ケアに広く深く取り組んでいきます。